RACE REPORT



SUPER FORMULA

Round.12 SUZUKA

第 12 戦　鈴鹿サーキット

2026 年 11 月 22 日（日）
予選・決勝
天候：晴れ／曇り　路面：ドライ

#38　阪口 晴南
予選　11 番手　決勝：8位
#39　大湯 都史樹
予選　10 番手　決勝：9 位

11 月 21 日（土）に行われた第 11 戦では、大湯都史樹が 6 位、阪口晴南が 10 位と、2 台が入賞を果たした SANKI VERTEX PARTNER CERUMO・INGING。一夜明けた 11 月 22 日（日）に行われる第 12 戦は、2026 年のシーズン最終戦となる。すでに第 11 戦で今季のチャンピオンは決まったが、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING、そしてふたりのドライバーにとっては好結果を残し、良い形で 2027 年に繋げたい大事な一戦だ。第 11 戦でみせた決勝ペースを活かすべく、公式予選での好位置獲得に向けてチームは第 12 戦に臨んだ。

QUALIFY 公式予選

11 月 22 日（日）　9:15～10:00　天候：晴れ　路面：ドライ
ベストタイム　#38　阪口晴南　1'37.616／#39　大湯都史樹　1'37.589

第 11 戦から一夜明けた鈴鹿サーキットは、前日に続き晴天に恵まれた。第 11 戦よりも早い午前 9 時 15 分から始まった公式予選 Q1 は、気温 11 度／路面温度 14 度という厳しい冷え込みとなったが、風が弱まったことで体感の寒さはやや和らいでいた。

まず始まった Q1 の A 組に出走したのは阪口。一度ユーズドタイヤでコースインした後、ニュータイヤを装着しアタックに入ると、1 分 37 秒 916 を記録し 6 番手へ。前日果たせなかった Q2 進出を達成した。

続く B 組に出走したのは大湯。阪口同様ユーズドでのコースイン後、ニュータイヤでアタック。1 分 37 秒 672 を記録し、こちらは 4 番手へ。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING は 2 台揃って Q2 に進出を果たした。

続く Q2 では、まずは阪口が 1 分 37 秒 616 を記録する。これに続き大湯がアタックを行い 1 分 37 秒 589 を記録するが、0.154 秒差で阪口を上回った。ただ、ライバルたちのタイムアップが大きく大湯が 11 番手、阪口が 12 番手という結果となった。

「ベースは間違いなく良くなっています。ただいろいろなところで歯車がうまく噛み合っていません」というのは大湯。「スーパーフォーミュラはさまざまな要素が重なって初めて前にいくことができますが、何かが欠けていると思います。不完全燃焼ですね」と 11 番手ながら悔しい表情をみせた。

一方、阪口は第 11 戦で果たせなかった Q2 に進出することができたこともあり「ポジションとしてはいまひとつかもしれませんが、クルマとしては進歩しています。Q2 では自分のミスもありましたが、決勝に向けては良い方向だと思います」と振り返った。チームは中団からの追い上げを目指し、決勝レースに向けて準備を進めた。



RACE

決勝レース

11月22日（日） 13:50～14:47 天候：曇り 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'39.960（24L）／#39 大湯都史樹 1'40.041（11L）



前日の第11戦同様、予選終了から4時間のインターバルで迎えた第12戦の決勝レース。スタート進行を前に鈴鹿サーキットは雲が増え、風もやや強くなり始めていた。

午後1時50分にフォーメーションラップがスタートした決勝レースは、気温13度／路面温度18度というコンディションで始まった。

10番手からスタートを切った大湯は「うまく決まりました」とダッシュを決め、アウト側にラインをとっていくが、前に#36 坪井翔がいたためスペースが取れず、わずかにグリーン上に出てしまう。その間隙をついたのが11番手からスタートした阪口で、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGはオープニングラップを阪口が10番手、コースアウトしたものの、重点的に取り組んできたオープニングラップのペースが実を結び、ダメージを最小限に留めた大湯が11番手で終える。さらに2周目には競り合いのなかで9番手につけていた#36 坪井がフロントウイングを痛めたことから、阪口はこれを一気にオーバーテイク。#36 坪井がピットに戻ったこともあり、阪口が9番手、大湯が10番手につけた。

阪口と大湯は序盤、11番手につけた#8 山下健太以下の集団を少しずつ離しながらレースを進めていったが、8周目にピットウインドウがオープンすると、前日とは逆に大湯が先にピットイン。作業を行った。

一方、ピットストップをレース後半まで引っ張ったのは阪口。レース中盤、4番手まで順位を上げ20周を終えてピットイン。タイヤ交換を行ったが、ここで右フロントの交換作業にわずかに時間を要してしまいポジションを下げてしまった。タイヤ交換を終えた陣営のなかでは、大湯との間に3台が入ってしまうことになる。

大湯はレース終盤、後方から#50 野村勇斗、#64 佐藤蓮に接近されることになるが、タイヤ交換を終えた#37 サッシャ・フェネストラズがスピンし接触したことで#50 野村は後退。ただ#64 佐藤蓮はピタリと大湯の背後に続き、さらにこの2台には阪口が接近。終盤、大湯、#64 佐藤、阪口のバトルが展開された。この中で、フレッシュなタイヤのパフォーマンスを活かした阪口が29周目に#64 佐藤をかわし大湯の背後につけた。

迎えたファイナルラップ、大湯と阪口は僅差のバトルに突入していくが、オーバーテイクシステムの残量を残していた阪口が最終周のスプーンカーブからウマ娘 130Rでの攻防で大湯をオーバーテイク。阪口が8位、大湯が9位という結果でチェッカーを受けた。その差はわずか0.310秒だった。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは第11戦に続き、2台が入賞し最終戦を終えた。2027年はさらなる上位で戦うべく、オフシーズンの準備を進める。





COMMENTS ドライバー／監督コメント



38　阪口 晴南　SENA SAKAGUCHI

「路面温度が下がりスタートは決まりませんでしたが、位置取りで前に出られたと思います。この時季のスタートは今後の課題ですね。序盤、集団で走っているときはペースはありませんでしたが、レース中盤以降、クルマが軽くなり始めた頃からはペースが良く、ステイアウトした作戦も正解だったと思います。ただレースをトータルで見たらやらなければいけないことが多いですね。ピット作業でのロスがあったのは残念でしたが、終盤３台ほど抜けたので良かったです。ただ、トップ争いのためにはもう少し頑張らなければいけません。今年は欠場などいろいろありましたが、最後は２戦入賞でき良かったです。皆さんにありがとうございましたとお伝えしたいですね」



39　大湯 都史樹　TOSHIKI OYU

「スタートは良かったのですが、位置取りで前の動きを考慮しつつ、アウトから行こうとしたのですが、接触しそうだったので外に逃げる判断をしました。結果的に１周目のペースを上げたい思いで試行錯誤したのが的中し、順位を落とさず走れたと思います。レース中盤以降、第 11 戦同様少しトラブルがあってペースが維持できなくなり、タイヤにも負荷がかかってしまったと思います。今年は 39 号車として抱えていた問題があったのですが、今週はそれが少し顕著に出てしまったと思います。悪いところや課題がいろいろ見つかった最終大会になりましたが、その原因と改善策は今後の課題になってくると思いましたね。来季に向けて取り組んでいきたいです」



立川 祐路 監督　YUJI TACHIKAWA

「予選では前日から２台とも改善することができ Q2 に進出しましたが、上位を狙えるだけのパフォーマンスがなかったですね。決勝は大湯選手がスタート直後危ういシーンもありましたが、そこまで大きく順位を下げることがなかったので良かったです。阪口選手については、戦略面で良かったものの、ピットでロスがあったのが残念でした。その結果２台がバトルになりましたが、ともに入賞できたのでその点は評価したいと思います。とはいえ、トップを争うためには２台とも力不足だったと思っています。これからシーズンオフになりますが、来年に向けて準備をして、優勝を争えるような体制を作っていきたいと思います。一年間、応援ありがとうございました！」





INGINGMOTORSPORT

RACE REPORT

RESULT リザルト

第 12 戦鈴鹿サーキット　決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	52'38.935	
2	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	52'41.462	2.527
3	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	52'59.536	20.601
4	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'01.223	22.288
5	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	53'02.146	23.211
6	7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'03.364	24.429
7	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'05.539	26.604
8	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'17.311	38.376
9	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'17.621	38.686
10	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	53'17.873	38.938
11	8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'20.936	42.001
12	50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	53'25.600	46.665
13	53	C. ブルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'26.121	47.186
14	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	53'26.212	47.277
15	97	R. スタネック	ナビクル Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'35.689	56.754
16	9	G. アレジ	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'37.964	59.029
17	28	小林利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	53'49.976	1'11.041
18	4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	54'01.099	1'22.164
19	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	52'44.781	1Lap
20	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	53'09.344	1Lap
21	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	27	52'51.141	4Laps
			以上完走				
	22	松下信治	DELiGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	26	48'15.855	5Laps
	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	22	42'19.063	9Laps
	19	鈴木斗輝哉	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	19	53'12.417	12Laps

ドライバーランキング（上位）

Rank.	No.	Driver	Total
1	6	太田格之進	153
2	1	岩佐歩夢	124.5
3	65	I. オオムラ・フラガ	79
4	14	福住仁嶺	73
5	16	野尻智紀	70.5
6	5	牧野任祐	60
7	19	Z. オサリバン	54
8	39	大湯都史樹	50
9	37	S. フェネストラズ	43.5
10	36	坪井翔	43
11	38	阪口晴南	31
—	38	卜部和久	0

チームランキング（上位）

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	197
2	TEAM MUGEN AUTOBACS	163
3	VANTELIN TEAM TOM'S	86.5
4	PONOS NAKAJIMA RACING	83.5
5	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	77
6	NTT docomo Business ROOKIE	68
7	TEAM IMPUL	50
8	DELiGHTWORKS RACING	27
9	REALIZE KONDO RACING	23
10	KDDI TGMGP TGR-DC	22